

井の頭公園池のアメリカザリガニ対策

認定 NPO 法人 生態工房

八木 愛

井の頭池(都立井の頭恩賜公園)ではこれまで2回のかいぼりを行った結果、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚が激減し、それらによる捕食圧を受けていたモツゴやスジエビなどの在来生物が回復傾向にある。またこれら在来生物を餌とするカイツブリ等の水鳥の繁殖活動が盛んになり、生きもののつながりも回復した。さらに約 60 年前に姿を消した水草も復活するなど、かいぼりは多くの効果を井の頭池にもたらした。しかし、かいぼりでは捕獲できないアメリカザリガニによる水草への影響が懸念されたため、1 回目のかいぼり(以下、かいぼり 25)後からはワナによるアメリカザリガニ防除に取り組んでいる。

井の頭池のアメリカザリガニ対策の特徴は、行政・NPO・市民ボランティアの三者が良い関係で協力しながら防除活動に取り組んでいることにある。この市民ボランティアは「井の頭かいぼり隊」(以下かいぼり隊)といい、かいぼり 25 の実施に合わせ、2013 年に東京都が公募した。かいぼりだけでなく、井の頭池の自然再生に向けた取り組みに広く長く携われる高校生以上を対象に集められている。年度更新制で、初年度は 46 名が登録し、2 期生の募集を経て現在は 50 名が登録している。年代別に見ると、40 代が 30%と最も多く、50 代が 24%、60 代が 16%と続く(図 1)。最年少は 16 歳、最年長は 82 歳である。大半が公園の近隣地域である三鷹市や武蔵野市に居住している。



井の頭かいぼり隊

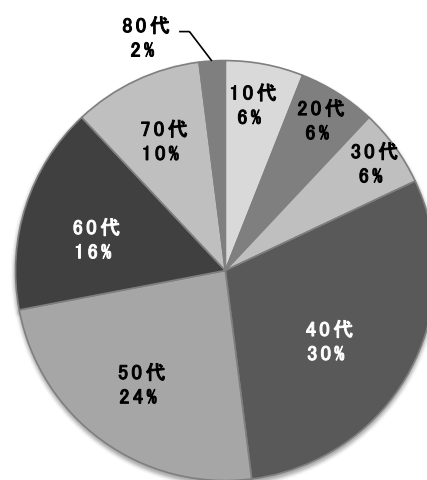


図 1.井の頭かいぼり隊の年代内訳

ワナなどの漁具や、胴長靴などは行政(東京都)から提供されているため、かいぼり隊は各々身支度を調べてくるだけで良い。また、隊員の多くは自然保護活動や生きもの調査の経験が少ない、あるいは全くの未経験であるため、生態工房が東京都よりボランティアコーディネートおよび技術指導を受託し、業務として携わっている。

井の頭池は図2のような形の1つの池であるが、便宜上「弁天池区域」、「お茶の水池区域」、「ボート池区域」に分け、防除を行っている。

2015年度まではワナの設置範囲をお茶の水池区域のみとしていた。かいぼり25では弁天池区域の水は抜かず、ボート池区域との境界に仕切り板を設置していたため、弁天池にはまだ外来魚が残っている状態だった。2015年11月から2016年3月にかけて行われた2回目のかいぼり(以下、かいぼり27)では弁天池も水を抜き、仕切り板も撤去され再び1つの池となった。

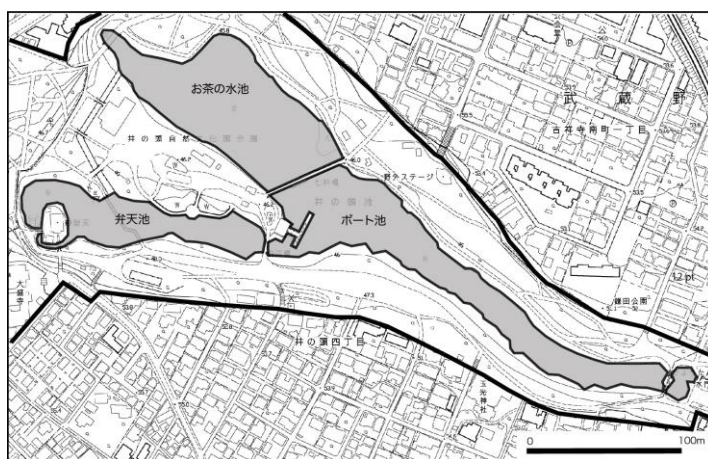


図2.防除実施区域

今年からは全域にワナを設置している。使用しているワナはおもに遮光型カゴ網で、弁天池区域に50基、お茶の水池区域に40基、ボート池区域に40基の計130基を常設し、4月下旬から11月まで週2回の頻度で生物を回収した。



フローターに乗ってワナを回収する



ボート池は陸上からワナを引き上げる

1 ワナあたりのアメリカザリガニの捕獲数の推移を図 3 に示す。2015 年のお茶の水区域と比べてみると、どの区域でも約 3 倍以上の捕獲数であることがわかった。季節変異を見ても、防除開始直後の 5 月に捕獲数が多くなり、その後 8 月にかけて減少するが 9 月に微増するという傾向が毎年続いている。

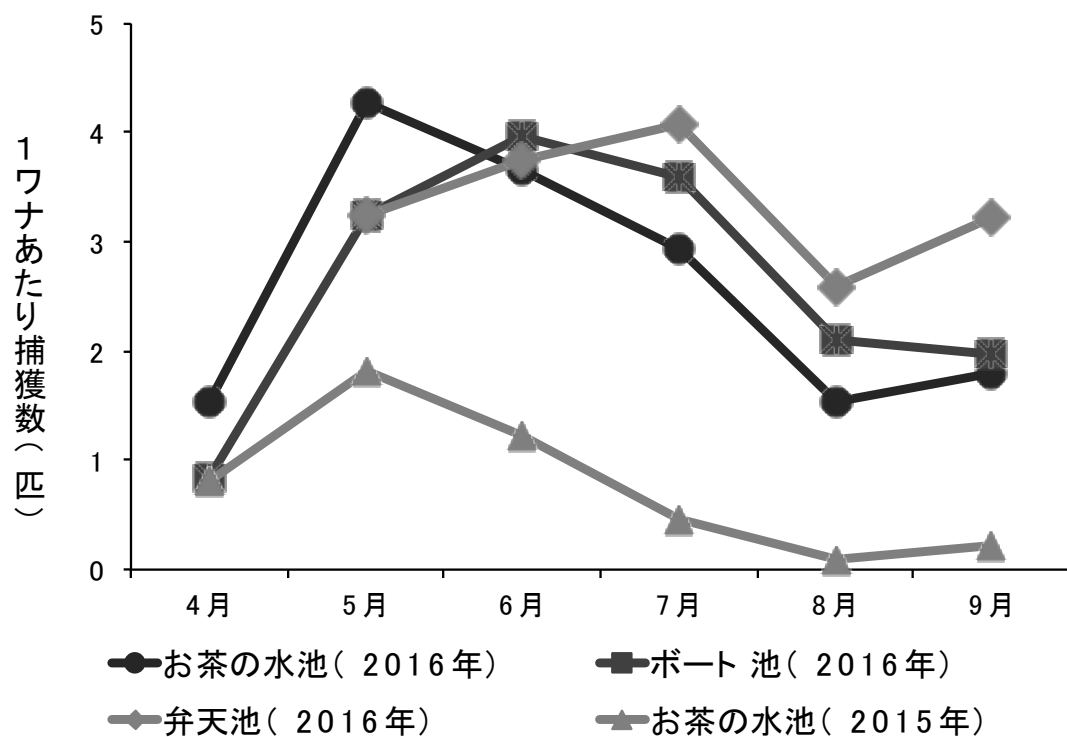


図 3. 各区域におけるアメリカザリガニの 1 ワナあたりの捕獲数

7 月の各池の頭胸甲長の結果を昨年 7 月の結果と比較すると図 4 のようになった。どの区域でも昨年よりもやや大きい個体が多くなった。

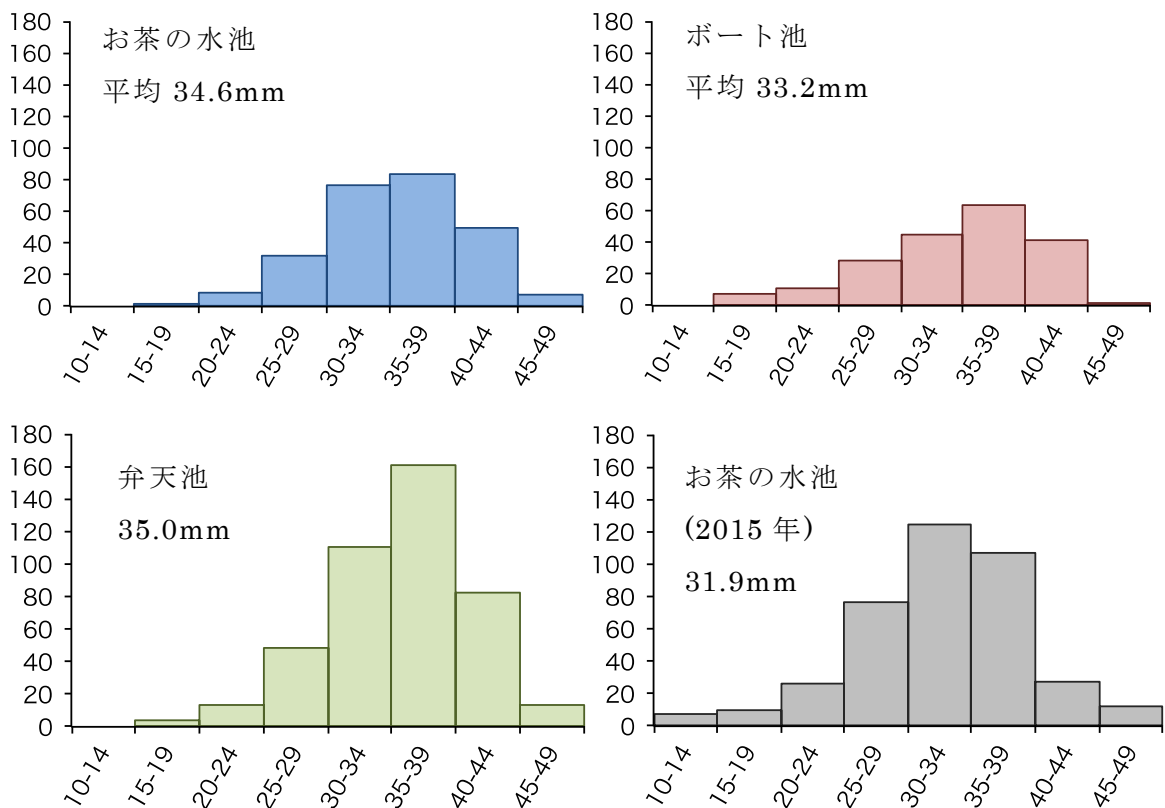


図 4. 各区域における 7 月のアメリカザリガニの頭胸甲長

ワナによるアメリカザリガニ防除に取り組み初めて 3 年目、残念ながら捕獲数はまだ減少には転じていない。これからも地道な防除活動を重ねていく必要がある。

現在井の頭池のアメリカザリガニ防除は、より効果的な手法の開発までには至っていないが、ワナ数の増加と作業にあたるボランティアの質の向上をすることで、アメリカザリガニの爆発的な増加を抑えている。

一般的にボランティアによる防除活動の課題として、参加者のモチベーションの低下が懸念される。井の頭かいぼり隊は地域住民が多く、元々のモチベーションは非常に高く、熱心な人が多い。防除作業は 1 週間で平日に 1 回、休日に 1 回の場合が多いが、平日は 60 代以上のかいぼり隊員が 1～3 名程度、休日は幅広い年代のかいぼり隊員が 10～15 人程度参加している。

かいぼり 25 以後、アメリカザリガニ防除と並行して定置網を使った水生生物のモニタリングを行い在来生物の回復状況を調査してきたが、

今年からは透明度、水鳥、トンボ、水草の調査にも力を入れ始めた。アメリカザリガニ防除活動以外の様々なメニューに取り組むことにより、かいぼりの効果を自分たちの目で感じられることが、高いモチベーションの維持に繋がっているのだと考えられる。また、他所でのかいぼりに参加するなどの研修を年に 2～4 回ほど実施し、スキルアップに励んでいることも重要である。

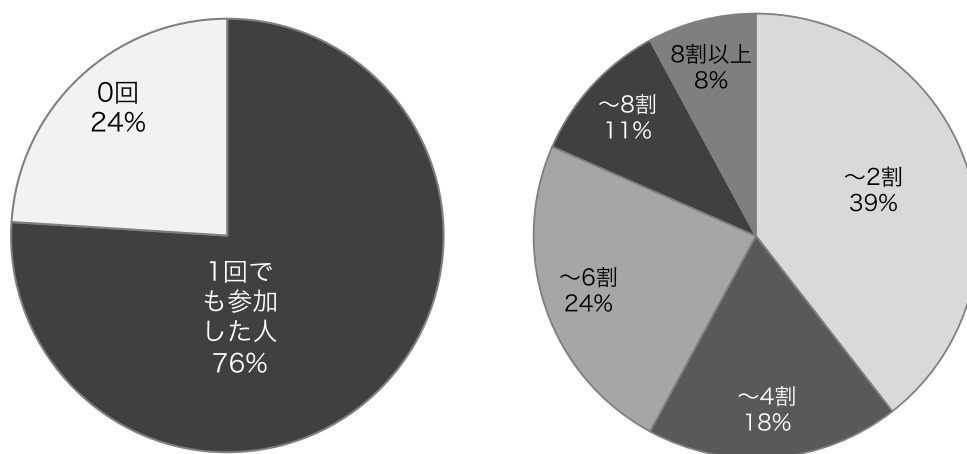


図 5.10 月末現在の活動への参加率(左)と、土日の活動(全 29 回)への参加率

来年には 3 回目のかいぼりが予定されている。それまでに、アメリカザリガニを減らすべく、かいぼり隊と行政と連携しながら引き続き防除活動を行っていく。